

会議議事録

会議の名称	令和7年度 第2回 玉野市子ども・子育て会議
開催日時	令和7（2025）年9月25日（木）13時30分～15時45分
開催場所	玉野市すこやかセンター
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 報告事項</li> <li>4 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 玉野市こども・若者計画（仮称）骨子案について</li> <li>(2) 玉野市こども・若者計画（仮称）策定に関するアンケート結果等について</li> <li>(3) 玉野市こども・若者計画（仮称）の施策体系とこども・若者支援施策について</li> </ol> </li> <li>5 その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 今後のスケジュールについて                 <ul style="list-style-type: none"> <li>第3回：11月27日（木）14時～16時 場所：玉野市すこやかセンター</li> <li>第4回：2月19日（木）14時～16時 場所：玉野市消防本部</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>6 閉会</li> </ol>
配付資料	<p>資料1 こども・若者計画 骨子案</p> <p>資料2-1 玉野市 若者の意識と生活に関するアンケート調査 報告書</p> <p>資料2-2 玉野市 若者の意識と生活に関するアンケート調査フリーアンサー取りまとめ結果</p> <p>資料2-3 若者フリーアンサー キーワードの抽出</p> <p>資料3-1 玉野市 子どもの生活実態に関する調査（小中学生・保護者） 報告書</p> <p>資料3-2 玉野市 子どもの生活実態に関する調査（小中学生・保護者） フリーアンサー取りまとめ結果</p> <p>資料3-3 小中学生フリーアンサー キーワードの抽出、保護者フリーアンサー キーワードの抽出</p> <p>資料4 玉野市こども・若者計画（仮称）に関するグループインタビュー調査 報告書</p> <p>資料5 玉野市こども・若者計画 施策体系の考え方（案）</p> <p>報告事項用資料 次第、委員名簿、配席表</p>

議事内容	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会</li> <li>・留意事項について</li> <li>・配付資料確認</li> </ul>
清板委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席者確認</li> <li>・会議の成立について</li> <li>・議事の前に、事務局から報告事項がありますので、ご報告します。</li> <li>・報告事項説明</li> <li>・ご質問があれば、お願いします。</li> <li>・ないようですので、続けてご説明します。</li> <li>・報告事項の続き説明</li> <li>・報告事項について、何かありましたらお願いします。</li> <li>・ないようですので、次第4の議事に入りたいと思います。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事(1)玉野市子ども・若者計画(仮称)骨子案について、事務局から説明願いたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1説明</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨子案の枠組の説明があったが、質問等あれば伺いたい。</li> <li>・特にないようなので、議事(2)玉野市子ども・若者計画(仮称)策定に関するアンケート結果等について、説明願いたい。若者、子ども、保護者の順で行うそう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2-1、2-2、2-3説明</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かあれば、自由に発言願いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から、子育てしやすいまちとして、経済的ということが結構見える。例えば資料2-1の31ページでは「保育や教育にかかる経済的な負担を軽減する」が圧倒的だった。この結果を踏まえて、どのように経済的な負担が軽減されるのか、どのような計画を立てるのか、案が今あれば教えてもらいたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど、資料1の骨子案をご説明した。第4章で、例えば計画の施策体系に「支援が必要だ」ということをうたい、実際にどのようなことができるかは次の段階になると思う。まず、委員のご意見のように、本日はアンケートの結果からこういった課題が読み取れる、特にここが重要だろう、ここの部分はこういう支援が必要だろうということをもとめ、次の事業として何ができるかを具体的に考える流れになっている。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2-2でも、経済に関する項目が多く出ており、39歳までの若者、そして半分は子どもを持つ人の多くがその問題を訴えていることは、委員の印象に残ったと思う。</li> <li>・会議の中で、市民の強いニーズがどこにあるのか確認する、ニーズを見つけることで、そこに視点を置いた施策を立てるべきと考えてもらえるとよい。</li> <li>・事務局からも説明があったように、これまでの「子ども・子育て支援事業計画」では、就学前までの子どもたちの保育環境や養育環境、教育環境、家庭環境を市がしっかり支援していくことに重点があった。しかし、来年度から始まる「子ども・若者計画」では、もう少し年齢層が高いところで、その人たちがどのような施策の必要性を感じているかをすくい上げたい。</li> </ul>

議事内容	
清板委員長 (進行) (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このような世界状況で格差の問題等が背景にあるとは思いますが、特に注目すべきは、経済的な問題等をどのようにつらく感じているかだ。そのポイントに視点を置き、貧困で苦しんでいる、家族のために犠牲になっている、行き場を失ってひきこもっているといった苦しい状況にある若者をどうやって救うか、どうやって支援していくか、どうやって良い環境が設定できるようにしていくかが新しいプランが必要としているところかと思う。特にそこに重点を置き、どういったところが必要か、目に付くかということに軸足を置くと、市が有効に意見を役立てることができるかと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで、こどもがいない人よりもこどものいる人の方が定住したいというのがあり、何かしらのつながりのある人の方が喜びはあるように感じた。</li> <li>教育の前に、遊ばせる場所がこどもを育てる上で大事だと思う。玉野市に来たとき、児童館や公園といったつながる場所、子育てをする場所が少ないと思った。以前住んでいた東京の吉祥寺では、0歳から3歳までの子は市の施設で自由に遊べた。スタッフがいて遊べるし、親もつながれるので、幼稚園探しや子育ての悩み、学校のことを話せた。こどもたちの遊びがあり、親がつながっていることが私にはよかった。そういった点で物足りなさや寂しさがあると感じている。</li> <li>こどもや小学生の母親が登校のことで、もやもやしているけれど、言う場所がないことや本当はこういう思いがあるけれども、どこに伝えたらよいのかということ、皆はどのようなか探り合いの中にあることが初めて分かった。つながっていく場所があると「玉野市はこういうところに力を入れているから、子育てできるな」「こういうところで人とつながれると、生きやすいのではないか」と思える場所を作っていくのがよいと思っている。</li> <li>現在長女が住んでいるコペンハーゲンでは子育てが活発で、たくさんこどもが生まれている。なぜだろうと思ったら、コミュニティが多く、子育てに孤独や不安がなく、つながれるからだ。空いた教会をリノベーションした「アブサロン」という施設で、高齢者や子育てしている人など、いろいろな人が集まるすばらしいものだ。フライングタイガーコペンハーゲンというところが買い取ってやっている。</li> <li>市として、そこまでお金を出せるかは分からないが、学校がこれだけなくなっていくのなら、空いている物件をひきこもりの若者が集まって何か手作業できる場所にする、児童館の時間の不足分を補えるなどにしたらどうか。メルカには下の椅子に座っているおばあちゃんたちがいるので、場所がないなら、そういう場所を一緒に作ってもいい。いかようにもできると思う。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもを持つばこそつながりたいと切実に感じているようで、こどものいる人の方が僅かだが「玉野市は住みやすい」と思っていて、住みやすさの感度が高くなっている。吉祥寺やコペンハーゲンと比べると、こどもを持ち、育てている人たちがつながりたいけど、つながるのにふさわしい、程よい環境や場所、条件が準備されていないので、もったいない。メルカには座っている高齢者がおり、また、児童館等にあまり来ていないこどもと母親が遊んでいたりするので、ニーズはあちこちに断片的にあるようだが、気の利いたつながりを作る機能が玉野市には少し不足している、もっとあってもよいのではないかという意見だった。</li> <li>コペンハーゲンでは、空き教室のような場所を企業が買い取っているのか。</li> </ul>

議事内容	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会離れしているので、雑貨店であるフライングタイガーコペンハーゲンが買い取った。そこはすばらしく、ヨガや高齢者向けの陶芸等、毎日違うものがある。また、こどもを育てる母親は結構孤立するので、そういう人たちや若者が集まれる民衆の家のような感じで作っている。そういうものは、東京よりも人が点在している地方の方が必要だと思っている。現実どうやって作れるかは分からないが、アンケート結果を見ると児童館への要望がある。周囲でもそういう要望を聞くが、一方で情報がない。人とつながって話すと、すごく楽になる。ひきこもった親同士でもそうだと思う。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センターのような場所に孤立した母親が招かれ、その存在を知ると、「ここに来れば似たような人がいるんだ」と、少し不安が落ち着くということはあると思う。それをどういう仕掛けで作るか。玉野市のように人口密度が低く点在しているまちに、こどもを持って自由に動けない母親たちがいるはずなので、どうやって集めてつなぎ、心理的な不安を穏やかにするか。魅力的で気の利いた場所、仕掛けということだと思う。</li> <li>・そういったところは、委員が一番関心を持っているポイントだと思うが、どうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者も含めて、こどもが集える場所というニーズはあると思う。</li> <li>・今回は、子育て応援企業という立場で参加している。他自治体で、以前から子育て支援拠点を受託しており、商業ビルの中にこどもたちが遊べる場所を作っている。そこで社員である保育士が定期的に、お茶会のような小規模で、雑談の中で話ができるイベント、保育相談会を行っている。一時預かりもやっており、買い物時にちょっとこどもを預けたいというようなニーズに応えられるようなものになっている。</li> <li>・玉野市内の事業でも、平日にママ友たちが来園し、室内で話をしている場面を見かけるので、つながりたいというニーズはあると思う。特に特別支援のこどもや保護者たちは、共有したいというのがあると思う。</li> <li>・玉野市内でも活動している場所があると思うので、そこをより使いやすくする、子育て世代に分かりやすくする必要があると思う。</li> <li>・一点伺いたい。私も玉野市外だが子育てしているので、大変さは実感している。こういったアンケートを取ると、少子化の流れ、地方都市ということで、似たような結果がほかでも出ると思う。玉野市固有の回答として出ているものは、どういうところか。産婦人科がない、必要だというのは一つあるが、ほかに玉野市だからこその課題があるのなら、教えてもらいたい。</li> </ul>
(株) ぎょう せい担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉野市独自でこれだとはっきり申し上げるのは難しいが、傾向としては、集いの場所、若者が気楽に集まれる場所や安心できる場所、つまり居場所づくりに対するニーズは、他自治体より高いように感じる。また、経済的な支援について、先ほどご意見があったが、どこの自治体でも多くある。子育て世代への支援のニーズは特に高く、今回の若者を対象とした調査でも、経済的な支援へのニーズが高い結果が出ている。</li> <li>・後ほど、グループインタビューの結果について、事務局からご報告があると思うが、そこで出た独自のを説明する。</li> <li>・グループインタビューでは、交流というキーワードがあった。楽しく交流できる場がほしいということだが、ある一定の距離感を持って人と接する雰囲気があり、その中で「自分がボランティアを経験した」「ほかの人からの話を聞いて楽しい場所があるね」という話があった。楽しく交流できる場所ということをはっきりおっしゃった参加者が何人かいた。重要なキーワードだと感じた。</li> </ul>

議事内容	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう計画は、総花的にしないといけないというのがあるとは思いますが、その中でも強化するものを決めていく上で、集いや交流というキーワードを重視するのは大事だと思った。</li> <li>・もう一つ、玉野市に伺いたい。アンケート結果を見て、そうだよねと共感したものがあるか、また、目からうろこ的な回答、気づかなかったという回答があれば、教えてもらいたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や階級による差、男女差がいくつかあると思った。先ほどの説明では、「ひきこもり」「ヤングケアラー」「居場所」の視点でキーワードを抽出したが、例えば情報の入手先として、男性は「YouTube」、女性は「Instagram」が高いという結果があった。SNSを使うにしても、どういった形で出すのが重要だろうかと思った。直接的な支援の話とはずれるが、そういう結果が見られた。</li> <li>・資料2-1に、結婚を希望する人に対してどのような支援が必要かというのがある。今後、結婚支援に力を入れるのは当然だが、19ページの男女の年齢別で見ると、若い世代では安定した雇用環境づくりの数値が高くなっている。市で支援を進めているパーティー、イベントなど出会いの場や機会の提供については、30代後半で高いので、出会いの場がないのかなと思う。</li> <li>・先ほどからご意見で出ている交流や人のコミュニティ、居場所づくりにも関わってくるかと思う。今後、今行っている施策についても、こういうターゲットにはこういう仕組みが必要という細かなところから考えていかないといけないように思う。母数が少ないので、全体かどうかはいえないが、結果のような傾向はあるというのが見えたところである。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにあれば伺いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かねてから感じていたことで、アンケート結果を聞いて、より実施する必要があると感じたものがある。</li> <li>・昨日市役所に行くと、認知症月間ということで情報を発信してくれていた。狭いところだと思うが、見守り、いこいの場所として、市の認知症カフェだろうか7、8か所くらいで人々が集まって話をしていることや高齢者が集まる場所としてあるということを目を引くような形でやってくれていた。こういうものは市が率先して参加者を募ったのか、それとも個人でやっている事業所が思い立って実施し、市がPRしたのかどちらなのか教えてもらいたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が委託して、開催している認知症カフェ（以下「カフェ」）が3か所ある。最初はすこやかセンターの1か所だけだったが、市内の皆さんが参加するには遠いため、いろいろな場所にあって気軽に行くことができ、誰でも相談できる方がよいということで、事業所や認知症のキャラバンメイトがカフェを開催してくれている。認知症サポーター養成講座の中でも、カフェの重要性をお伝えしたところ、自分の地区でもやってみたいという声があり、個人的に開催されているカフェも4つほどできて、現在カフェが7か所となっている。</li> <li>・カフェには、認知症だけではなく、認知症になるかもしれないという人や認知症の人を抱えているご家族、認知症に興味のある人などが集っている。また、それを支えるボランティアや地域の人も交流する集いの場、居場所づくりという形で、自然といろいろな場所にできているといううれしい状況である。その一つの場所へ見学に行き、自分でもできるのではないかとということで広がっていくところもある。子育てについても、こども食堂等ができ、そこから広がりが増えつつできているので、いろいろなパターンの居場所ができればよいと思っている。</li> </ul>

議事内容	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の話からも、個人で始めるよりも、最初は市が動いて、企業等に協力を募るというやり方がベストだと思う。昨日も市役所でしっかり活動内容等を見たが、皆満足しているようだった。そのやり方で、子育て世代特化型でやってはどうか。ひきこもりやヤングケアラー、若年層はなかなか出てこないし、引っ張り出すのは難しいと思うが、カフェを見ると成功しているようなので、施策に取り入れてはどうか。企業型は少ないが、参加したいという企業はあると思う。</li> <li>・先日、岡山在住の人をメインにして玉野市の企業を商工観光課が紹介するという機会があったので行った。参加者は多くなかったが、市の福祉課の人と少し話をした。課が合同で何か取り組んでいるようで、会社の業務内容を市の職員がより深く知った上で、ターゲットを若年層で働けていない人に特化し、何かをしたいという気持ちを伝えてくれた。行政と企業は切り分けた方がよいが、新しいことをしようと思うときは、行政はもっと企業に頼ってよいのではないかと感じた。</li> <li>・ふるさと納税等、商業的な部分で当社に来ることは多いが、雇用といったことで市の人と会う機会はなかった。ほかの県や自治体がしているか分からないが、全体的に市の方から企業にもっと連携する形を取れば、企業連携が強い玉野市として何かPRになるのかなというのがずっと頭にあった。</li> <li>・当社の縫製工場で働く子育て世代は5人いる。そこで話ができているので、居場所、つながりといった場所としてのモデルケースではとも感じている。次の施策のときにはもっと企業を絡めてもよいのではないかと思った。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政施策に企業をもっと引き込む、力を借りる、場面を利用させてもらうというアイデアだと思う。</li> <li>・委員が最初に話したのは、認知症支援についてで、その活動を市が立てたが、いろいろな人が参加して、自然発生的に交流が広がったという話があった。そういう活動に若者が入ってくることはあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で認知症サポーター養成講座を実施しているので、こどもの認知症サポーターがいる。たまにカフェに手伝いをしに来てくれるこどももいる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2-1の20から28ページ、仕事と子育てについてのアンケート結果は、とてもよいものだった。働き方について、玉野市の企業に周知してもらい、働く人に余裕を持ってもらいたい。働く人が余裕を持てば、こどもといる時間やほかのコミュニティといる時間も増えると思うので、周知、発信できるような対策を皆で考えられるといいと思った。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立する若者やヤングケアラーに軸を置いたとき、各委員の経験などから何かないか。</li> <li>・30歳を過ぎて40歳近くなった若者が結婚しなくてもよいと思い始めているというデータがあった。結婚は諦めるという印象なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのくらいの年齢になると、経済的にもある程度余裕ができ、一人の生活にも慣れていくことから、出会いに対して少し消極的になっている様子がうかがえる。結婚支援については、30歳までに打ち立てていくべきものなのかなと結果を見て感じている。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30歳までに結婚となればよいが、そうでない場合もある。40歳くらいまで支援が必要なのかもしれない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30歳になると、出会いを求めているのは男性の方が多いような状況である。男性は30代、女性は20代あたりにターゲットを絞りつつ、施策を打たないといけないのかなという印象である。</li> </ul>

議事内容	
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• もう一つ、資料2-1の41ページ、孤立感のデータを見たとき、先ほどの結婚のデータと結びつくと感じた。孤立を感じているのは、10代の終わり頃の若者で、自意識が過剰になって孤立しているかと思っていたが、結果を見ると、男女共に30、40歳くらいまでの人が孤立を感じているので、このあたりの結婚をしていない、心は青年である人たちへの支援も必要なのかという気がした。厚生労働省は就職氷河期を1970年から1987年生まれとしており、その時代とこの年齢は重なっているのでは、思うような仕事に就けなかった、結婚もなかなか自信を持って申し込めなかったみたいに、両方立ち遅れている人も少なからずいるのではないかという気がした。</li> <li>• 孤立しているのは思春期の人だといつ結びつけがちで、そこから年齢を重ね、年齢の高い孤立者となったと考えるだけではないものがある気がした。</li> <li>• 孤立や逸脱といった問題を扱っている委員に伺いたい。何か気づいていることがあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 玉野市内の若者の相談支援をしている立場としては、資料2-1の45ページ、不安や悩みがあるときの相談相手について、家族や友人が多く、学校や専門相談機関、行政の割合が低いことに思うことがあった。孤立とは離れるかもしれないが、困った人は自分が安心して相談できる場所、既に関係性があるところで相談がしやすいという数値のように読み取れた。会議当初から居場所やつながりの話があったが、そこでやりとりができ、その関係性から相談ができる。そこから、相談を受けた人が必要なところにつながる流れができたらいいなと思った。相談を受けている専門機関からすると、もっとアピールしないといけないし、利用してもらいたいと思った。居場所の提供もしながら、相談を受けた人が今度はどうやって必要な相談につながっていくかも、仕組みを工夫して、必要な人に必要な支援が届くよう方針に反映され、施策や組織づくりにつながっていけたらよいと思っている。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほかにあれば伺いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認知症サポーター養成講座を中学校で毎年やっているが、話を聞いて興味を持つ生徒や家や近くにいる高齢者に目を向けて気にする生徒が出てくる。そこから、近くでカフェのようなものがあれば行ってみようかとボランティアになる一方、近くになれば講座を受けて「習ったよ、以上、終わり」ということになるかと思う。講座を受け、生かせる場が近くにあれば、高齢者と子ども、若者がつながると思った。</li> <li>• 中学校では、3年生の家庭科の保育の一環で、赤ちゃん登校日というものも実施している。昨年から市内の7つの中学校を会場にして、子育てをしている父親や母親と赤ちゃんに来てもらい、生徒との触れ合いや親から話を聞く機会になっている。参加してくれる親は、それぞれが行きやすい会場に行ってくれたらよいと思っていたが、複数の人が何か所にも行って来てくれたことに驚いた。何か所も行った人たちに話を聞くと、最初の会場で同世代の母親、父親と話ができる機会があって楽しかった、中学生と触れ合えることに加えて、一緒に連れて行った上の子どもが走り回ったりしていても、見てもらえるから楽しかったそうだ。同じような人と話す場があってすごくよかったということだった。我々のイメージと違っていた。そこから、何とかセンターや何かの会は敷居が高いのかもしれない、皆が何気なく行って、ちょっと集まっておしゃべりして帰るような集う場のニーズがあるのかなと思った。</li> <li>• 経済的なこともあると思うが、働いている人は、職場に行けばそこでの関わりがあるし、子どもたちは学校に行く。でも家庭で家のことをして、子どもを見ている人は孤立を感じると思っている。そういう人がふらっと行って、話ができ気持ちがちよっと楽になるような場所が点々とあると、楽しいのかなと思った。</li> </ul>

議事内容	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃん登校日については、去年から市が幼児クラブも同じようにしようと始まった。幼児クラブの中で、各地区で赤ちゃん登校日に参加できるか募集をしたところ「ここに行けるけど、ほかにも行ける」と参加していた実態があった。</li> <li>・子育てしやすい市、環境については、実際に子育てしている人としていない人で、アンケート結果に差がある。子育てをしてみると、子育てしやすい玉野市を実感できるのかと思った。支援センターや児童館も存在しているが、恐らく若い人にはあまり周知されていない。実際子育てしていると、どこかに行こうかと調べて知り、そこへ行って知る。</li> <li>・幼児クラブは、各地区にあったものが今年4月から一つになった。保育園や幼稚園に入るこどもの数が減ってしまい、各地区で活動できないという声が聞こえてきたからだ。そこで一つになって活動している。</li> <li>・幼児クラブは、支援センターや児童館につながるまでにあるといいと思っているので、生まれて1か月の新生児を保健師が訪問する際に、幼児クラブのちらしを配ってもらうようにしている。月に1回と、こどもみらい課でやっている合同交流会に参加してくださいという声掛けをやってもらっていて、できるだけ孤立しないような場所の提案をしてもらうようにお願いしている。</li> <li>・それとは別に、地区の社会福祉協議会では多世代が交流できる場や機会が設けられている。私が住んでいる田井地区では、昨年12月に他世代交流イベント「ニコニコ広場」を開催した。今年も2回目が開催される。赤ちゃんから小学生までのこどもと高齢者で「まんなか遊び」をしよう、交流をしようとしている。ほかの地区でもそういうイベントや交流スペースがあると思うが、全てにおいてお知らせが行っていないのではないかと実感では思っている。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃん登校日は母親にとっても、生徒にとっても有効で楽しい場面であり、楽しいつながりが学校を超えて広がっていく感じで、素晴らしいと思った。子育ては子育て支援センターや児童館へというだけでなく、非公式なつながりを工夫して探せばいろいろあり、作れるという提案があったと思った。</li> <li>・実際にこどもを持っている人はいろいろな情報を持ち、皆に伝えようとしているが、全部を伝えきれていない。孤立感を持つ人に届くまでのどこかに情報を止めるものがあり、せっかくの機会にアクセスできないことがあるのかもしれない。伝える仕組みもっと丁寧で、工夫が必要だということでもある。</li> <li>・議事(1)のこども、若者のアンケート結果等について説明願いたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3-1、3-2、3-3、4説明</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの議論で、若者だけでなくこどもや保護者の問題も出てきたが、事務局の説明を受けて、意見や提案があれば伺いたい。</li> <li>・こどもたちを間近で見ている委員に伺いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・築港地区は若干少ない人数だったので、目の前のこどもたちと、ほかの地域のこどもとは違うかもしれないが、一番気になったのは、ヤングケアラーのお手伝いのところだ。</li> <li>・学校では、お手伝いを自主的に、意欲的に一生懸命やっているという話をしている子が多いという実感があり、進んでやっているのはとてもいいことだと思うが、資料4の97ページ、家事の手伝いをすることで起きる問題を見ると、困っている、しんどいと思っている子が少ない人数ながらも見えた。</li> <li>・夏休みに毎日手伝いを頑張ったなどの積極的でよいことは発信してくれるが、小学</li> </ul>

議事内容	
委員 (続き)	生といえどもマイナスなことは発信しにくいので、実際に接していても見えにくい状況だ。少なくとも学期に1回は、事前にアンケートを取り、担任と子どもが1対1で、友達や家庭のことなどを話す時間を持っている。普段の生活の様子から心配だと教職員も感じているが、アンケートで実際に踏み込んで聞き、問題として浮き上がってきた。ヤングケアラーは隠れやすい。虐待の方がまだ表に出やすいと感じた。
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもにとっても、自分の親の弱点につながるようなことに関連してお手伝いをしているということは出たくないし、外に言いたくない気持ちも当然働かだろう。なかなか表に出てこない。実際に学校を休んでしまう子や早退、遅刻をしてしまう子どもも、本当はしたくないけど、手伝いのためにそうせざるを得ないという悲痛な声がここに反映されている気が改めてする。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これだけのボリュームのアンケートの説明があったが、若者の説明のときからアンケート結果を見るのは本当に難しいと思った。有意な差が表れているところをピックアップして発言しているのかどうかと、ずっと考えていた。バイアスがかかっていないか。</li> <li>• 数字の見方がとても気になっている。アンケートからこんな課題が見えているという話をするには、とても量が多い。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アンケートは、関連の有意差等がされていないので、小さいものについても同じようにパーセンテージを出してあり、比較している。統計的な有意差を基にする議論にはなっていないことは事実だと思う。そうではあるが、このような形で数値を拾ってみると、問題となるべき事柄がそれなりの形で見えてくるので、教員の日常の経験の中で触発される問題意識や気づきがあれば提案してもらえるとよいと思う。</li> <li>• 正確に言えば、関連の有意差を出していないと、なかなか議論しにくいけど、小さな数字で比較するのが難しいのは確かだと思う。アンケート結果とは直に関わらなくても何かあれば伺いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 玉野市の特徴が見えるデータを教えてほしいという発言が先ほどあったが、これがとても大切だと思う。ほかの市と比べて、玉野市ならではのことを教えてもらえると何か意見が言えると思っていた。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アンケート作成のとき、国の指導により他市でも行っているという話があったと思う。現時点で違いがある点を少し担当者が話してくれたが、ほかにも気づいたことはあるか。</li> </ul>
(株)ぎょうせい 担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国や岡山県の調査と比較して、どのような差が見えてくるか、また、玉野市独自の質問があるので、そこから深く分析していけたらと思う。次回は素案となる。どんな具体的な取組を行うのか、どういうニーズに基づいてやっているのか、玉野市独自か総花かもできるだけ分かるようにしていきたいと思う。</li> <li>• 例えば資料3-1の116ページに、玉野市の将来像がある。これは独自のものだが「美しい自然環境や景観が守られているまち」の割合が最も高く、続いて「子どもがしっかり学べる教育が充実したまち」となっている。児童・生徒のアンケートで「子どもがしっかり学べる教育が充実したまち」が2番目に挙がるのは、他自治体に比べて特徴的だ。3番目に「高齢者や障がいのある人にやさしく、誰もが住みやすい福祉が充実したまち」があり「農業や漁業を大切に守り続けるまち」は中山間部で割合が高くなっている。</li> <li>• 次の117ページでは、暮らしやすい玉野市を作るためにできることを聞いているが「ルールを守る」「ボランティアをする」「ごみ拾いをする」といった、できることからやっという点がある。中学生では「一人一人の人権を尊重する行動」も高いことから、小学生から中学生に上がるにつれて、意識の変化が起こっている。</li> </ul>

議事内容	
(株)ぎょうせい 担当(続き)	・市として、小学生の頃から力を入れていくべきこと、中学生になったら力を入れていくべきことと、きめ細かく対応していくことが必要かなと感じた。
清板委員長 (進行)	・本日は多くのアンケート結果を盛り込んだ、欲張った説明をしたが、委員それぞれが日頃の経験の中で感じていることを提示してくれたので、有り難かった。 ・時間の関係もあるので、議事(3)玉野市子ども・若者計画(仮称)の施策体系と子ども・若者支援施策について、事務局から説明願いたい。
事務局	・資料5説明
清板委員長 (進行)	・この資料では、下線が入っている部分が見にくい。下線が入っているところが全てか。
事務局	・右端の基本目標4から6を主にと考えている。基本目標4の基本施策10、基本目標5の全て、基本施策12から14。基本目標6も全て下線が入っているが、特に基本施策19が居場所や交流の場づくりで、本日委員の皆様からのご意見があった部分になるかと思う。その中で必要な施策等のご意見を願いたい。
清板委員長 (進行)	・市が行う具体的な施策として、このようなことができるのではないかと提案があればということだ。今日の会議では、ヒントとなるような提案がいくつかあったと受け取っている。加えて、こんなアイデアはどうかといったものがあれば伺いたい。
委員	・基本目標1から6の中から委員会を選ぶのか。
事務局	・玉野市子ども・若者計画骨子案の第4章の基本理念や施策体系の細かい中身として、大きく6つの目標を設定し、その中に関連する施策として、基本施策を書いている。その中でも、昨年度策定した子ども・子育て支援事業計画の中に含まれている内容は、資料5の右端の部分で下線が入っていないところになる。過去の計画でこういう視点のものは取り組んでいる、計画の中である程度文字化されたものがあるということである。今回、子ども・若者計画を策定するに当たり、これまでにない視点として、ヤングケアラーや貧困対策、居場所づくりがキーワードとして出てくるということなので、そういったものを目標の中に組み込んでいるところである。資料の文言を見て、どうするかといったことは議論しづらいと思うが、本日の会議でこれまでにいろいろとご提案いただいた。それらのご提案を中に落とし込んでいく形になると思う。例えば、こういう視点が漏れている、こういった項目はどこに含まれるのかなど、分かりにくい点があれば、ご指摘をいただきたい。
委員	・よく分かった。
委員	・内容ではなく漢字についてだが「子ども」「子ども」と、違う表記がある。例えば国の施策の名称であれば、表記がいろいろあるのは分かる。玉野市の中で、計画名では「子ども」、中身を見ると「子ども」になったりしている。使い分けているのか、なんとなく使っているのか、どういう理由なのか。
事務局	・今回策定する計画は、国の「子ども基本法」に基づいているので「子ども」となっている。基本的には「子ども」表記であるが、これまで玉野市の事業で作った条例や要綱等では「子ども」となっているため、とても分かりにくくなっているのは、ご指摘の通り。きっちりと統一できていない部分もあると思うので、混乱を来さない方法を考えてみる。分かるような工夫を考えたいと思う。

議事内容	
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども」「子ども」は根拠を持ちつつの表記で、混ざり合っているということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども」だとよいのだが、子育てになると、表記は「子育て」となるなど、「子」でも漢字、ひらがなといろいろなパターンがある。基本的には制度ごとに分けているつもりだが、統一できていない部分もあるかと思う。分かりやすい工夫を考えたいと思う。</li> </ul>
清板委員長 (進行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにあれば伺いたい。</li> <li>・意見が出尽くしたようだ。会議の時間も長くなった。本日会議で出た意見を十分に生かし、吟味しながらプランにつなげたい。そしてプランを見るということで進めてもらえたらと思う。</li> <li>・長時間にわたって協力いただき、感謝する。これで議事を終了する。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他について、何かご報告などあればお願いします。</li> <li>・今後のスケジュール説明</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉会</li> </ul>

以上